



〈雑録〉ヴェーンチヒ教授ノ『東京帝國大學ニ於ケル 經濟學教授法改良意見』ヲ讀ム

福田，徳三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 10(1):81-93

(Issue Date)

1911-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051664>



雜 錄

ヴェーレンチヒ教授ノ『東京帝國大學ニ於ケル經濟學教授法改良意見』ヲ讀ム

法學博士 福田 德三

畏友東京帝國大學經濟學教授ドクトル、ハイ
ンリヒ、ヴェーレンチヒ氏ハ近頃題名ノ如キ意見
書ヲ起草シ之ヲ邦文ニ譯出セシメ一篇ノ冊子ト
シテ知友ノ間ニ頒布セラレ予輩モ幸ニ一本ノ惠
贈ヲ受ケタ、思フニ此問題ニ關シテハ兼テヨリ
充分思考ヲ積マレタ諸先進ニ於テ精密ナル考究
ノ結果其意見ノ發表アルコトデアロウ、予輩ノ
如ク帝國大學ニ何等ノ關係ナキモノ、客隊ス可
キ限リデハナイ、乍去教授ガ態々自ラ資ヲ捐テ

ヲ印刷セシメマタ之レヲ予輩等慶應義塾ニ於テ
理財科ニ關係シテ居ルモノ一同ニ頒布セラレタ
コトハ、之ニ對シ我々私立學校教師ニモ意見ヲ
質サル、趣意ナルカト思フ、然ラバ之ニ對シ全
ク沈黙ヲ守ルハ同學者タルノ道デナイト思フ、
仍テ茲ニ一讀ノ際心付キタルコト、兼テ多少思
慮シツ、アルコトヲ併セテ筆錄シテ教授ノ厚意
ニ答ヘタイト思フ。

教授ハ先ヅ我邦教育ノ進歩ヲ嘆稱シ而シテ曰
ク『然リト雖モ既ニ到達シタルコトヲ以テ満足
スルハ危險ナリ、停止ハ卽チ退歩ナリ、日新ノ
方法ヲ以テ國民ノ大目的ニ適應セムコトヲ力ム
ルニ依リテ初メテ國民教育ノ困難ナル問題ニ進
歩的ノ解釋ヲ與フルコトヲ得ベシ、予東京帝國
大學ニ於ケル經濟學ノ研究ヲ進捗センガ爲メニ
招聘セラレタルモノナリ故ニ言行ヲ以テ之ニ寄
與スルコトヲ努力セザレバ予ハ其責任ヲ空フス
ルモノト云フベシ』ト、而シテ自然科學ト人文科

學トノ教授法ニハ根本的ノ差違アリ、後者ノ中ニテモ亦タ必ズシモ同一ノ教授法ヲ墨守ス可キニ非ズトシテ、『如何ニシテ良キ經濟學者ヲ養成スベキカノ問題ハ決シテ如何ニシテ法律學者ヲ養成スベキカノ問題ト同一ニ之ニ答フルコトヲ得ズ』トシ、經濟學ノ教授法ヲ決定スルニ付テハ特ニ二點ニ注意スルヲ要スト云ハレテ居ル。其二點トハ教授ノ云フ所ニテハ

(一) 經濟學ハ新進ノ學問ナリ、故ニ攻撃ノ餘地ナキ確固タル智識ノ集積未ダ多カラズ從テ單ニ此ノ僅少ナル確定的智識ヲ傳授スルヲ目的トスル教授法ハ其價值比較的ニ少シ全體ノ教授法ハ寧ロ自己ノ判斷力ヲ養フコトヲ目的トセザル可カラズ故ニ學問上眞ニ能ク研究セラレタル範圍内ニ屬スル特別ナル著書論文ヲ特ニ深ク研究スルコトニ依リテ批評的能力ノ發達ヲ計ルハ正否猶ホ不確實ナル一般ノ理論ノ大要ヲ注入スルヨリ

ハ遙カニ重要ナリ。

(二) 經濟學ノ目的物就中現今ノ經濟的生活ハ絶ヘズ迅速ナル變化ヲ受ケツ、アリ(中略)從テ舊學生ハ其學習シタル講義筆記及ビ教科書ニヨリテ此ニ對スル判斷ヲ下スコト能ハザルコト少カラザルベシ、故ニ將來ノ實際家タルベキモノニ研究家タルノ能力ヲ與ヘ彼等ニ系統的ニ學問研究法ヲ學ハシメ(中略)自己ノ力ヲ以テ解決シ得ルガ如キ方法ヲ以テ初ヨリ彼等ヲ教育セザルベカラズ。

ト云フノデアル、而シテ是レ丈ケハ先ヅ總論ト見ル可キモノデアツテ特ニ東京帝國大學ニ於ケル教授法ニ就テ論ゼラレタノデナイノハ勿論デアル。

右論ゼラル、所ハ誠ニ誰人モ異議ナカル可キ所デアツテ而シテ又單ニ經濟學ニノミ應用セラル可キデナク社會科學否或ハ一切ノ學問ニ就テ

モ大體ニ於テハ斯ク認メネバナラヌコト、思フ乍去或ハ誤解ガ起ルカモ知レヌト思ハル、點ハ經濟學ハ特ニ新進ノ學問タル故ニ一般的理論ヲ教フルコトハ甚ダ重要ナラザルカノ如キ感ヲ惹起セシメテハナラヌト云フコト此デアル、獨逸ノ新歷史派ノ諸學者ガ餘リニ多ク『スペチアリスト』ニ成リ果テ、一般理論ノ如キハ全ク度外ニ置ク傾向ナシト云ヘザルトノコトハ、ブレシタノ教授ガ屢々其『ゼミナール』ニ於テ我々學生ニ注意ヲ與ヘラレタ點デアツテ、予輩自ラモ亦淺薄ナル見聞ノ間ニ多少其感ヲ惹起シタ一人デアル、併シヴエーレンチヒ教授ノ眞意ハ決シテ一般理論ヲ輕視セヨト云フノデナク、批評的能力ノ涵養ノ最重要ニシテ鵜呑の一般理論家ヲ排斥セラル、ニアルハ明瞭デアル、サレバ以上總論ノ眼目タル點ニ就テハ何等ノ異見アルヲ許サナイ斯界ノ定論デアルト斷言シテ差支ナイコトト信ズル。

サテ教授ハ『東京帝國大學ノ教授法ハ是等ノ要求ニ適合スルヤ』トノ問ヲ提出シテ以下實際ノ狀態ヲ描キ出シテ之ニ答ヲ與ヘラレタ、其答ハ全然否定的デアル、曰ク『勿論此國(日本)ヲ云フニ於テモ毫モ他人ノ力ヲ借ラズシテ、自己ノ目的ヲ達スルノ途ヲ發見シ得ル天才ナキニ非ズ然レドモ此ノ如キ天才ヲ除外スルトキハ、上述ノ如キ教育ヲ受ケテ大學ヲ去リタルモノニハ、理論的又ハ實際的ノ問題ヲ適實ニ研究シ得ル能力ヲ備ヘタルモノナシト云フモ敢テ不可ナキナリ』ト、此ノ斷案ハ主トシテ東京帝國大學ニ就テ下サレタモノナルコト勿論デアルガ、前後ノ文章ニ照シテ考フルトキハ、教授ハ一般ニ我日本ノ經濟學生ノ全部ヲモ其斷案中ニ總括セラル、モノト思ハレル、若シ然リトセバ我輩如キモノモ亦其責任ヲ分擔セネバナラヌノデアル、教授ハ東京高等商業學校ノ講師ヲモ兼ネテ居ラレルカラ少クトモ其關係ニ於テ我輩ハ教授ノ此ノ消

極的意見ニ對シテ沈黙スルヲ得ヌカト心得ルノデアル。

サテ教授ガ此ノ否定的結論ニ到達セラル、記述ヲ熟考シテ見ルニ其原因ヲ左ノ諸點ニ歸セラ、如ク見エルノデアル。

(一) 試験萬能ノ制度

(二) 講義時間ノ過多

(三) 演習制度ノ缺乏

教授曰ク『予ノ檢閲シタル試験答案ニ共通ナル特質ハ出來得ル限り自己獨立ノ判斷ヲ避ケントスルノ傾向是ナリ、此等ノ答案ハ實際一ニノ講義筆記ノ原文ヲ暗記シ往々其儘之ヲ答案ニ記載シタルニ過ギズ、予ノ掲ゲタル問題ガ此ノ如キ方法ヲ採ルヲ容サル場合ニ於テハ彼等ニ之ニ對シテ何等ノ解決ヲ下スコト能ハザリキ(中略)此點ヨリ言ヘバ第二學年學生ノ試験答案ハ其百分ノ五ヲ除キ其他ハ總テ不充分ナリキ』ト而シテ『其原因ハ種々アリト雖モ(中略)第一ニ指摘

スベキハ試験規則カ教材ヲ單ニ機械的ニ暗記スルコトヲ獎勵スル點ニアリ、日本ノ學生ハ獨逸ノ學生ト異リテ其初メテ教場ニ入りタル日ヨリ常ニ小供ラシキ試験恐怖病ノ壓迫ノ下ニアリ』ト斷言シテ居ラレル、予輩ハ東京帝國大學ノ學生ガ果シテ然リヤ否ヤ毫モ知ラヌモノデアルガ予輩自ラノ驗經ニ於テ教授ノ此言ハ誠ニ時弊ニ的中シタルモノタルヲ感ズルモノデアル、併シ乍ラ傳聞スル所ニヨレバ東京帝國大學ノ法科ニハ學期試験ナルモノハ久シキ以前ヨリ存在セズ唯一ケ年一回ノ學年試験アルノミト云フ、然ルニ予輩ガ教師トシテ始メテ就職シタ頃ノ東京高等商業學校ニハ實ニ一ケ年二回ノ學期試験ト一回ノ學年試験ト合セテ三回ノ試験ガアツタ、即チ十ヶ月(其實ハ八ヶ月半程)ノ授業日數ニ對シテ三回ナル故、三ヶ月ニ一度ヅ、試験ガアル譯デアツタ、予輩ハ當時學期試験全廢ノ說ヲ唱ヘ幸ヒ容レラレテ語學其他二三ノ學科ノ外ハ其議

ガ成立ツタガ、聞ケハ其後又々復舊シタソウデ而シテ現今ニ於テハ一回ノ學期試験ト一回ノ學年試験(少クモ我輩ノ擔任スル經濟原論ノ科ニ付テハ)トニ成ツテ居ル、然ルニ慶應義塾ニ於テハ我輩就職ノ時ハ同ク三回試験制デアッタガ我輩ハ自由ノ學問ヲ標榜スル慶應義塾ニ此事アルハ斷ジテ贊成シ兼ヌル故屢々學期試験廢止ノ議ヲ唱ヘタガ一向贊成者ナク、我輩ハ獨斷ヲ以テ學年試験ノ外ハ多ク行ハナカッタガ近頃語學以外ハ擔任教師ノ自由ニ任スト云フ處迄改良ガ行ハレタ、併シ實際ハ外來ノ講師ハ其自由ヲ享受シテ居ルガ、專任教授ノ同僚諸君ハ皆學期試験ヲヤツテ居ル様デ、殊ニ外國人教師ノ學期試験ハ學生ノ困苦一方ナラザル有様ニ於テアルノデアアル、早稻田大學ハ如何カ知ラヌガ、官學ノ隨一タル帝國大學ガ此點ニ於テ最モ自由ニ近ク其ニタル東京高商ガ之ニ次ギ、而シテ民學ノ開祖學問自由ノ源泉トシテ認メラレテ居ル我慶應

義塾ガ最モ不自由的狀態ニ於テアルハ注目ス可キ現象デアルト思フ、東京高商ノ專攻部ハ我輩ハ關知セヌガ、聞ク所ニヨレバ年一回試験制ナルコト帝大法科ト全ク同一ナリト云フコトデア、京都ノ法科ヤ神戸高商ハ果シテ如何デアるか知ラヌ。

而シテヴェーンチヒ教授ハ東京帝國大學ニ就テ『四箇ノ學年試験ハ須ラク之ヲ廢シテ二年毎ニ施ス二箇ノ試験ヲ以テ之ニ代フベシ』トノ改良意見ヲ述ベテ居ラレル、帝大法科ヤ高商專攻部ノ如キ既ニ一年一回試験ノ制ヲ取テ居ル所ニ就テハ教授ノ意見ハ或ハ當ヲ得テ居ルカモ知レヌ、少クモ東京高商ノ專攻部ニ就テハ中間試験ヲ全廢シ卒業試験ノミヲ課スルコトハ誠ニ容易ニ行ハレ得可ク又甚便利デアロウト思フ、(同部ハ凡テ學科自由選擇ナル理想的制度ヲ昨年來採用シタカラ愈々然リト思フ)兎ニ角試験萬能ニ關スルヴ教授ノ所言ハ我輩ニ於テ全然贊成同感

ヲ禁ジ能ハヌ處デ、當今學問ノ一大病弊ナリトスル點ニ於テ予ハ敎授ヨリモ更ラニ痛切ニ感シテ居ル位デアル、併シ我輩現在ノ立場トシテハ、一ケ年一回試験ノ制度位ガ先々我邦ノ國情ニ適合シテ居ルモノト思ツテセメテ我慶應義塾ガ此ノ手近キ理想的狀態ニマデ進化センコトヲ切望スルニ止ムル外ハナイノデアル。

次ニ講義時間ノ過多即チ學生負擔ノ過重ニ就テハヴ教授ハ云フ『現今ノ如ク一週三十時間ノ講義ヲ聽カサルヲ得ザルガ如キ境遇ニ處センカ彼等ガ特別ナル修養及ビ讀書ヲ爲スハ蓋シ不可能ノ事ナラズンバアラズ』ト又曰ク『君ハ予ガ試験ノ爲メニ何頁ノ講義筆記ヲ暗記セザルヲ得ザルヤヲ知ルヤ、實ニ五千頁ナリ此語ハ實ニ第三學年ノ一學生ガ其一友人ニ其苦痛ヲ訴フルニ用キタルモノナリ是レ誠ニ善ク學生ノ實情ヲ吐露シタルモノト云フベシ』ト此點ハ我邦ノ國情ト獨逸ノ國情ト相違シ居リテ我一週三十時間ハ必

ズシモ獨逸大學ニ於ケル同數ノ時間ト同一視ス可キモノデナイカト思ハレルノデアル、獨立ノ研究ヲ營ム習慣充分ニ出來上リタル上ナレバ講義時間ノ減少ハ即チ夫レ丈ケノ自習時間ノ増加ヲ意味ス可キモ、今日現在ノ狀態ニ於テハ授業時間ノ減少ハ時トシテ空費時間ノ増加ヲ意味スルコトモ亦之レ無キヲ保セズト思フ、我輩ノ僅少ナル見聞ヲ以テスレバ獨逸大學生ノ負擔輕キコトハ或ハ『クナイペンレーベン』ヲ盛ナラシムル一原因デハアルマイカト思ハル、點モアル、殊ニ我邦ニ於テハ近來野球庭球等ノ文明的產物普及スルコト我輩ヲ以テ見レバ眞面目ナル勉學生ニ取リテハ殆ンド正當ノ程度ヲ超ユルコト數段ナルガ如クナレバ、授業時間ノ減少ガ適當ニ利用セラル可キヤ否ヤ輕々ニ斷言スルヲ得ヌカト思フ、乍併其レニシテモ一週三十時間ハ餘リ多過ギルカト考ラレル、我慶應義塾ハ此點ニ於テハ最モ理想的ニ理財科ハ第一年一週二十五

時 第二年二十三時、第三年二十二時間デアル高
商專攻部モ大抵同様デアルガ、同本科ハ帝大法
科ヨリモ猶負擔重カリシカト記憶シテ居ル、帝
大ハ四ケ年制ナルガ、最後ノ一ケ年ノ如キハ十
二三時間ニ減少シテ、而シテヅ教授ノ次ニ主張
セラル、演習ノ爲メニ餘裕ヲ作ルコトハ、必ズ
シモ不可能デハアルマイト考ラレル、併シ高等
文官試験ナルモノガ存スル限り如何デアロウカ
我々局外者ハ之レヲ判定スル資格ヲ有セヌ、高
商ニ就テハ我輩ハ嘗テ時間減少ノ議ヲ唱ヘタガ
コレハ行ハレナカツタ、外國語ノ爲メニ一週十
時間若クハ其以上ヲ費スヲ要スル處ニ於テハ、
而シテ一方經濟學ヲ修メツ、商業ニ關スル凡百
ノ智識ヲ三年間ニ與ヘントスル現狀ニシテ改良
セラレザル限り、時間減少論ハ或ハ不可能ノ事
デアルカトモ考ヘラル、ノデアル、(コレハ豫科
ノ改造ヲ前提トセネバナラヌトハ我輩ノ宿論デ
アル所以茲ニアル)、然ルニ慶應ノ學生中志アル

モノガ一方學期試験ニ脅迫セラレ他方文明的演
技ノ誘惑ヲ蒙リツ、猶在學中ニ於テ試験勉強
以外若干ノ自習讀書ヲナシツ、アルハ、思フニ
一週授業時間少ク殊ニ一週二日以上自由ナル午
後ヲ有スル爲メデアロウ、否或科ニ於テハ正科
以外ニ特別講義ヲ聽カントシテ教師ニ要請スル
モノスラアルナリ、此點ニ於テハ高商學生最モ
不利ナル地位ニアルモノトシテ同情セザル能ハ
ザルナリ、反之專攻部ノ學生ハ彼等ノ爲メニ與
ヘラレタル特別ノ讀書室ヲ常ニ充滿シツ、アル
ハ、授業時數少キ賜ニアラザルカ、我輩ノ學生
時代ヲ回顧スレバ、我輩ハ圖書館員ノ爲メニ其
讀書室ヨリ逐出サル、ヲ常トシタ、何トナレバ
授業ハ三時時トシテハ四時ニ終リ讀書室ハ五時
ニ閉鎖セラル、而シテ講義筆記以外ニ讀書セン
トスルモ貧書生タル我輩ハ十數圓ヲ投ジテロッ
シアノ英譯原論ヲ購フノ力ナカリシガ故デア
ル、今日ハ遙カニ改良セラレタル狀態ニアルモ

ヴァーエーシチ教授ノ『東京帝國大學ニ於ケル經濟學教授法改良意見』ヲ讀ム

猶之レヲ帝大殊ニ三田學生ニ比スルトキハ満足ヲ表シ能ハヌコト、思ハレル、次ニ第三ノ點即チ演習制度ノ缺乏ニ就テモ同ジクヴァ教授ノ所論ニ裏書スルノ外ハナイ次第アルガ、併シ此問題ハ三箇條中改良ノ實行至難ノモノタルヲ知ラナケレバナラス、ヴァ教授曰ク『此點ニ關シテ日本ノ進歩ノ後レタル事ハ總テ獨逸ノ大學ニ於テ演習ニ多大ノ時間ヲ配當スルコト(即チ總テノ經濟學ノ講義時間ノ平均三分ノ一ニ相當ス)及ビ獨逸ノ教授ガ演習ニ於テ學生ニ研究ヲ爲サシメ且ツ其結果ヲ出版セシメタル多數ノ論文ヲ見レバ直ニ善ク了解スルコトヲ得ベケン』ト而シテ立案トシテハ曰ク『目的ヲ達センガ爲メニハ特別ノ敎室研究室及普通ノ圖書館ヨリ獨立シテ歐米部及ビ亞細亞部ヲ具ヘタル國家學統計學ノ専門の圖書室ヲ設ケ茲ニ充分適當ナル助手ヲ配置スルヲ要ス、此演習ノ爲一人又ハ數人ノ日本人ノ主任ヲ置クベシ又此演習ハ外國ノ材料ヲ日

本ノ爲メニ利用スルヲ重ズルモノナルヲ以テ別ニ一人ノ外國教師ヲモ其主任ト爲スベシ、又圖書室ノ管理監督及ビ常ニ學生ノ相談ニ應ゼシメシ、此ノ如キ演習室ニ於ケル練習ノ外尙ホ之ニ關聯シテ學問的研究旅行ヲ行ヒ以テ學生ヲシテ現今全然缺如スル所ノ學理的教授ト相俟テ近世ノ經濟生活及ビ其實際上ノ要求ヲ自ラ目撃スルノ機會ヲ與フベシ(中略)此改良ハ財政上若干ノ犧牲ヲ要スルハ論ヲ待タズ(中略)然レドモ之ガ爲メニ要スル支出ノ如キハ暫時ノ間ニ之ヨリ生ズル利益ヲ以テ充分ニ之ヲ回收スルコトヲ得ベシ何トナレバ此ノ造營物ヨリ將來有爲ナル大藏大臣、銀行重役、大實業家、大工業家續々輩出スベケレバナリ』ト而シテ更ニ演習室ノ間接的利益トシテ『此ノ如キ風潮(社會主義ノ流行)ヲ警察力ヲ以テ壓服スルガ如キハ到底久シキニ涉リテ功ヲ奏スル所以ニ非ズ、此運動モ多少理由

ナキモノニアラザルヲ以テ此ヨリ發生スル惡傾向ノ如キ精神的ノ武器ヲ待テ初メテ之ヲ打破スルヲ得ベキモノナリ此ノ如キ武器ヲ鍛ヘ之レヲ研クノ場所トシテハ先ヅ第一ニ大學ヲ推ササルヲ得ズ』ト云ヒ演習研究室ハ即チ此大任ニ當ル中心タル可キモノナリト結論セラレテ居ル。

抑モ獨逸學問ノ發達ハ大學ノ講義ニ存セズ却テ此ノ演習研究室ノ制度ニ存シ而シテ他國ノ學問ノ獨逸ニ劣ルハ此設備ニ於テ缺ク所アル所以ハ一度獨逸大學ニ業ヲ承ケタコトノアル人ノ皆一致シテ信ズル所デアツテ米國ノ大學ガ競テ此制度ヲ移植シツ、アル所以ハ我邦人モ皆知ツテ居ル所デアル、將來米國ガ學問ノ上ニ大發展ヲ爲スコトアラバ其ハ其研究室制度預テ多大ノ功アルコト、言フ可キデアロウ、我邦モ日新ノ進歩ニ孤負セザランニハ固ヨリ此制度ヲ早く移植セチバナラヌコト亦同學者ノ一樣ニ認ムルコトと思フ、否現ニ此制度移植ノ必要ヲ認メテ設ケ

ラレタモノモ若干ハアル、即チ帝大ニハ經濟統計研究室アリ法制史研究室アリ亦タ社會學研究室ノ設モアルヤニ聞イテ居ル、高商ニ於テモ專攻部ニ研究室アリテ若干部ニ分チ各主任教授アリテ指導ノ任ニ當ツテ居ルト承知シテ居ル、三十六年ニ我輩就職ノ時同僚二三ト其必要ヲ唱導シ我輩ハミユンヘン、ライプチヒ等ニ於ケル研究室ノ眞似ヲシテ校長ニ肉迫シテ一室ヲ割カセ圖書館カラ若干ノ書物ヲ個人的責任ノ下ニ借受ケテ型計リノモノヲ作ツタ事ガアルガ、現在ノモノハ其後繼者デアルカ否カ知ラヌガ兎ニ角曩時ニ比シテハ遙カニ具備シタモノデアルト聞イテ居ル、我輩ノ『ゼミナール』カラハ左右田、坂西兩學士ノ『アルバイト』ヲ公刊シタガ其後ハ我輩自ラ『ゼミナール』ヲ有セヌ故此ノ『セリー』モ中絶シテ居ルハ常ニ殘念ニ思ツテ、慶應義塾ニ於テ同様ノモノヲ作ラント心掛ケテ居ルガ一向贊成者モナクテ今日ニ及ンデ居ルノデ、少クト

ウエーレンナヒ教授ノ「東京帝國大學ニ於ケル經濟學教授法改良意見」ヲ讀ム

モ此點ニ於テハ我輩ハヴエスチヒ教授ニ先ツ數年日本ニ於テ『ゼミナール』ヲ始メタモノトシテ自ラ誇ルヲ得ルモノト思ツテ居ルガサテ今新タニ研究室ヲ起シ又ハ擴張スルトナルト、其前途ニハ幾多ノ困難ガ横ハツテ居ルコトヲ忘レテナラヌト思フ、帝大ニハタトヘヴ教授ノ理想程ノモノナラズトモ既ニ經濟統計研究室アリ特別小「ライブラリー」モ備ヘ助手ノ常任者モアリ殊ニ故エンゲル先生ノ藏書全部ヲ保管シツ、アリト聞クサレバ教授ノ案ヲ實行ス可ク既ニ充分ノ準備ガアルモノデアツテ、唯其規模ヲ擴張シ、其經費ヲ豊富ニシサヘスレバ宜イ様ニ感ゼラルルガ、實ハソレ計リデハ有名無實トナル虞ガアル、研究室ノ充分活動シ得ルニハ是非トモ卒業論文ヲ強制セテバナラヌ故ニ此點ノ改正ヲ施シタ後デナケレバ何事モ始ラヌコトカト思フ、然ルニ我邦ノ學生ハ獨逸ノ學生ト異リ三年又ハ四年ノ後ハ必ズ卒業セネバナラヌ否彼ノ給養ヲ待

焦ル、老親若クハ弟妹アリ四年後ノ九月カラハ必ズ何等カノ方法デ「パン」ヲ稼ギ出サネバナラヌノデアル、從テ年々百二百ノ卒業生ハ必ズアル、其多數ニ一名毎ニ卒業論文ヲ作ラス可ク指導シ誘掖スルト云フコトハ現在ノ四五名ノ「スタツフ」ヲ以テシテ果シテ事實可能デアロウカ否カ先此點ヲ考ヘネバナラヌ、京都大學ノ如ク學生數ノ少キ處、又ハ高商專攻部ノ如キ組織ニ於テハコノ心配ハナキコトデアロウト思フガ、現ニ我慶應義塾ノ如キハ卒業論文ハ少クトモ理財科ニ於テハ強制ニナツテ居ルガ毎年二百名計リノ卒業論文ヲ一名若クハ二名ノ外國人教師ガ審査スルコトニナツテ居ルガ、聞ク所ニヨルト若干ノ若キ助手ガ之レヲ檢閲シ主任教授ハ單ニニ採點スルノミデ別ニ研究室ガアルデハナシ又其論文ヲ公ニスルノデナイカラ、コレハ學問的製作トシテ見ル可キモノデナク、一種ノ英語文練習ト見ル可キモノデアル、此點ニ於テ慶應ト

高商專攻部トヲ比較シテ見ルト前者ノ甚ダ幼稚ナルコトハ否定スルコトハ出來ヌ、專攻部ノ卒業論文中ニハ公刊ノ價值アルモノモ若干ハアル少クトモ二ケ年夫々主任ノ指導者ノ下ニ圖書館ヲ利用シ又研究室特設ノ設備ニヨリ獨逸流ニ演習ヲ毎週若クハ隔週ニ開キ批評セラレ訂正セラレ補助セラレ保護セラレテ完成シタモノデアアル商大問題ノ解決ハ如何ナロウトモ現在ノ專攻部ノ『レーゾン、デートル』ニシテ又其生命タルモノハ實ニ此ノ研究室ニアルト確信スル、此點ニ於テハ、ヴエーレンチヒ教授ハ專攻部ニ關係アル教師トシテ一方帝大ニ改良意見ヲ立テラル、ト共ニ他方高商ノ爲メニ補助的盡力ヲ惜マザラシコトヲ切望スルモノデアアル、即チ此項目ニ於テハ高商最モ理想ニ近ク帝大之レニ次ギ我慶應ハ全クノ蠻狀ニアルモノト斷言スルヲ憚ラヌノデアアル、京都大學ハ如何アロウカ、嘗テハ卒業論文ノ制モアツタ様ダガ其後廢セラレタト云フ

乍去最モ新シキ此大學コソ最モ理想ニ近キ設備ヲ爲シ得テ居ル可キ筈デアアル、早稻田大學ハ能クハ知ラヌガ仄ニ聞ケハ此點ニ於テハ慶應同様ノ未開狀態ニアル様デアアル、私學ノ民學ノト我ハ自慢シテ居ルガ、實ハ甚ダ耻入ツタ次第デハナイカ、怒ル人ハ勝手ニ怒ル可シ、怒ツテ而シテ研究室ノ設備ガ出來レバ、我輩ハ甚ダ本懷ニ思フモノデアアル、去年帝大ノ如ク慶應ノ如キ年々多數ノ卒業者ヲ製出ス可キ強制ノ下ニ立テル處ニテハ研究室ノ活用ハ實ニ六ヶ敷イノデアアル、加之研究室活動最大ノ障礙ハ金錢問題ニアラズ設備ノ問題ニアラズ又學校主腦者ノ頑迷ニモアラズシテ實ハ教授タル我々自身ニアルノデアアルソレニハ種々ノ事情ガアル、第一ハ我々ノ學力未熟ナルコト是レデアアル、ブレンタノ先生ヤブユーヒアー先生ノ研究室デ苦シク我輩如キハ我輩如キ學問ヲ以テシテ研究室指導等ト云フコトハ實ニ噴飯ニモ値セザル借上ノ沙汰ダト感

「東京帝國大學ニ於ケル經濟學教授法改良意見」ヲ讀ム

ズルノデアル、我々ハ果シテ何冊ノ書物ヲ讀破シタガ、何等ノ國民經濟的實際智識ヲ有スルカ何等ノ學術的製作ヲ出シタルカト考フレハ自分ヨリ精々十二三年シカ年若デナイ青年ニ向テ指導者ナリト稱シテ臨ムコトハ實ニ良心ノ呵責ヲ免レナイコトデアル、否在學生デモ少シ強勉シテ或一問題ヲ專攻シテ來ラレルト最早我輩ハ指導ドコロカ却テ彼ヨリ教ヲ受ケネバナラヌコトヲ發見スルノデアル、第二ニハ我々ノ極メテ多忙デアルコト是デアル、獨逸大學ノ教授デ我輩ノ就テ聽講シタ諸先生ハ

ブレンタノ先生ノ

冬期	講義	八時間
	演習	二時間
夏期	講義	六時間
	演習	二時間

位ガ大抵程度デ伯林ノコーラー教授ノ如キハ非常ナル例外(民法ノ教授ハ大抵時間數多キガ

如シ)而シテ科目ハ二又ハ三位ヲ限度トシテ居ラル、様デアツタ、然ルニ日本ノ教師ハ本務ト内職稼ギトヲ合セルト二十時間位ニ及ブモノ普通カト思フ、我輩個人ノ如キハ慶應ト高商ノミデ少クトモ目下ハ所謂車代講釋ハヤツテ居ラヌガ其受持ハ實ニ左ノ如クデアル

慶應

原論	二時間
政策	二時間
獨逸語	四時間
名著研究	二時間
日本經濟史	二時間
社會政策	二時間
合計	十四時間

(但シ實際ハ怠ケテ二科目休講シテ居ル、然セザレバ我輩ノ健康ハ破レルノ外ハナイ)

高商	原論	三時間
----	----	-----

科目ニシテ六科目、時間數ニシテ實ニ十七時間デアル、此ノ有様デ果シテ研究指導等ト云フコトガ出來ヨウカ、毎週六箇ノ異レル題目ニ付テ考ヘ且ツ講義スルコトガ果シテ工場法ノ制定セラル可キ時代ト合致スル現象ナル可キヤ否ヤハ扱テ置キ内職稼ナルモノニ付テモ世間ニ隨分議論ハアルガ、人間ハ生活セザル能ハザル以上而シテ獨逸ノ大學教授ト事異リ所謂 *reiche Heil-*「ト云フコトハ二三ノ顯著ナル取除ヲ以テノ外ハ日本ノ専門學校教授ノ餘リ好ム所タラザル以上而シテ俸給ハ二割五分ノ増加ヲ以テシテ猶一ケ年四千麻克ニ及バザル以上之レヲ絶對的ニ否定スルハ、社會政策的思慮ヲ有スル人ノ敢テ爲サル所ナル可クシテ、然ル間ハ日本ノ學者ニ獨逸流ノ研究演習ノ活用ヲ責ムルハ至難ノ事タラザルヲ得ナイカト思フ、第三ノ事情ハ日本ニ於テ實際的政策的研究ヲナスコトガ獨逸ニ於ケルト事異リ特殊ノ困難ニ依テ伴ハル、コト是

レデアル、第四ノ事情ハ日本學生ニ卒業論文ノ自費出版ヲ強制スル能ハザルコト是レデアル、第五學科ニ自由選擇ナキコト（高商專攻部ヲ除ク）其他列舉スレバ猶二三ノ項目ハアルガソレハ「教授ニ個人的ニ御話スルニ讓リテ茲ニハ書カヌコト、スル、之ヲ要スルニウエ教授ノ改良意見ハ意見トシテハ一々同感同情ノ外ハナイ事柄ノミデアルガ、扱テ實行如何ト顧ミルトキハ一部ハ直チニ行ヒ得可キモ一部ハ猶向後數十年ヲ待タチバナラヌコトカト思フノデアル、唯教授ガ從來ノ帝大外國教師ニ餘リ例ノナキ勇氣ト熱心トヲ以テ人ニ憎マル、ヲ恐レズ侃々諤々眞直ノ言ヲ公ケニシ依テ以テ我經濟學ノ情眼ヲ破ルニ勉メラレタル段ハ斯學後進ノ一人トシテ滿腔ノ感謝ヲ捧ゲチバナラヌノデアル、本篇中所ヘハツ當リヲ致シタノハ偶々ヴエ教授ノ熱心ニ激勵セラレタ餘リデアル、微意ヲ汲ンデ蕪辭ノ末ニ就テ立腹セラル、コトナクンハ幸甚シ。

（四十三三年十二月十四日記ス）